

『イギリスにおける労働者階級の状態』に学ぶ

第12回

関東ブロック

私たちは何を学んだのか

階級闘争史

司会…本講座はいよいよ最終回になりました。

この一年間の学習会で感じたこと、掴んだこと、この『イギリスにおける労働者階級の状態』から何を学んだのか、今日の日本の労働運動の課題をみんなで見合いました。

最初に矢島さんから補足して下さい。それから皆さんから意見をいただきたいと思います。それではどうぞ。

矢島…成果は、一つに関東6県協がそれぞれ大衆運動として統一して取り組

めたこと。二つ目にこのテキストから何を学ぶかが理解できたのかどうかなんです。書かれていることは、単なる人類の進化論ではなくて、唯物史観なんです。まさに階級闘争史として書かれています。影響を与えたのが1789年のフランス革命から1830年のフランス7月革命によるブルジョアとプロレタリアの階級闘争なのです。

エンゲルスは、『共産党宣言』の1888年英語版への序文の中で、「人類の全歴史は原始氏族社会が崩壊して以来、階級闘争の歴史であった。この思想は歴史科学の基礎となる使命を持

つものである」とし、「私の『イギリスにおける労働者階級の状態』が最もよく示している」と紹介しています。つまり、資本主義における労働者階級の状態が科学的社会主義への基礎をなしていると考えたのです。そこが明らかに良いと思います。

司会…ありがとうございました。各県協の頑張り、団結、これが一つあるということですね。それで、もう一つはこのテキストで言っているのは、「階級闘争」、ブルジョアとプロレタリアートとの闘いですね。これは今現在も続いているということを理解でき

◆ みんなの学習講座



学習会で討論する関東の仲間たち

たかとうかということだと思えます。
では、各県協から報告をお願いします。

茨城県協

①テキストの中身が具体的にあり理解しやすかった。

②労働者の搾取の方法が、今と変わっていないことを当時からやっていたこと

ろが面白かった。

③子どもや女性が窓のない住居など過酷な環境、湿気や粉塵、危険な作業現場で長時間労働を強いられたなど、具体的に報告されていた。

④今、学童施設で働いているが、コロナ禍以降、父親が失業して母親が働いている、ひとり親など学校にいけない生徒が増えた。このことが怒りとなって現在爆発していない。闘いの主体性が私たちにあれば人間らしい生活を求め闘いに向かうということだと思う。

以上が感想としては出ました。

神奈川県協

原稿締切日までスタートから3カ月の短期間にてどうにか原稿の完成を成し遂げることが出来た要因は、目標に向かって5人の結束力が珍しく発揮された結果の成果でした。具体的には、

統計資料の調査によって『社会的要因

による競争』と『個人的要因による競争』の表の作成等をはじめ、全体のまとめを積極的に実施できた。

群馬県協

県協として、相当なエネルギーを集中しました。読者が読んでくれるか不安でした。今まで古典を学んできましたが、仲間づくりに役に立ってきたのか疑問です。資本主義体制も変化しています。まずは、現状分析が必要ではないかと思えます。そのために資本主義社会に生きている中で誰もが持っている常識を、古典から学び交流し払拭していきたいと思えます。

山梨県協

甲府友の会の第一学習会で議論して、熱い討論ができたと思えます。みんな

退職者ですから、自分が働いていた労働実態とイギリスの150年前の労働実態が似ているし、今現在の色々なニュースや労働者の話からも同じ状態だっていることがよく分かったという感想です。

千葉直協

①当時から現在までの階級格差・差別は存在し続けていること。資本主義社会の存在を解決しない限り解決できない問題であるのは確かなこと。

②政府や野党はエンゲルス同様、詳細に検討する必要がある。エンゲルスが職場労働者の実態を科学的に探究したように、危険なワクチンを強制されない自由を守る労働運動へと繋げる必要がある。

と報告されています。この学習会で労働者の実態を学ぶことができました。そこはすごく良かったなと思います。

また、みんなで楽しく学習できました。

埼玉県協

編集の苦労とテキストの中身の感想を県協全体に知ってもらおうと、学習を大衆運動と捉え、中間報告を9月に発刊しました。『県協ニュース193号』に載せたことで、県協のみんなと繋がったと思います。全体の感想は、「歴史から学んで、現代の洞察に役立つ」ということですね。

各自から感想、意見を討論

司会…次に個人の感想はいかがですか。
鈴木…当時は長時間労働や、5〜6歳の児童労働が当たり前になっていました。現代においても過労死や自殺、残業代の未払いが当たり前に行われています。当時も今も資本主義の実態は変わっていないと思います。この本をデ

キストにして、社会を変える運動に参加する仲間を作っていきたいと思います。

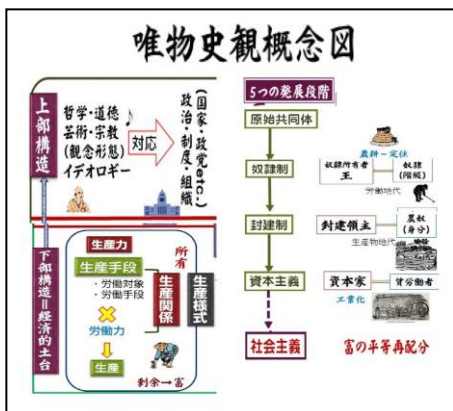
清水…資本主義が始まった当初の労働がいかに悲惨な状況だったかはよくわかりました。その中でも労働者同士が競争、そして団結、資本家による搾取の様子が具体的でした。

群馬県協では、今日の労働者の現状を把握する必要があるのではないかと、

現代の資本主義にたどり着いた社会、これをきちんと分析し、周りの仲間と話せるようにならないければ仲間づくりには繋がらないのではないかと言われました。社会主義という言葉が口に出せないような雰囲気はみんな感じていると思います。それをどう克服していくか、そこが一番大事だと思う。古典をやるのもいいけども、今の現状をきちっと分析して、自分の言葉で言えるようにすることが必要だと思います。

勝田…その搾取の仕組みを知らなければ

◆ みんなの学習講座



ば、資本家が悪いっていう風にはならない。今、顕著に起こっている現象の一つとしては、環境破壊かなと思います。経済を優先して、計画的に何かをやるんじやなくて、資本の自由に儲けたいってことだけで突き進むから、地球もおかしくなると思います。

もう一つは、やっぱり、今、世界各地で起きている戦争ですよね。

格 差

清水…格差が拡大しているからではないでしょうか。

司会…格差について意見がありますが、どうですか。

岸…富める者が、どれだけ富んでいるのか、金持ってるのかはわからない。だから、格差拡大って言ったって実感は持てないと思う。

勝田…今の会社に入って、高い給料もらってる人実際に金額を見たから、こんな小さい会社でもこうなんだからっていうのが感覚としてはあるけど、そういう人は、やっぱり自分の世界の人しか見てないから、やっぱり、そういう感じはあるかもしれません。

司会…格差が、具体的に話されたけど、それが、イギリスの労働者階級の状態の学習の中で、なぜそういう討論になったのかを、話してください。

勝田…イギリスの労働者がすごく虐げ

られて、あの小さいところに住まわされてた人たちが立ち上がっていくっていうことが、なぜできるのか。日本はそういう風になるだろうか。能力主義があまりにも浸透しすぎて、労働者がバラバラになっているのが、うまく管理されていて、組織された労働者として立ち上がっていくというのが感じられないんです。

小林…でも、そう・西武労働組合が、全一日のストライキを、金じやなくて、働き続ける権利を守るために、立ち上がりましたよ。まだまだ諦めるのは早い。

階級・階級闘争

矢島…先ほど労働者は立ち上がれないのではないかと言われましたが、労働者という個人と労働者階級という言葉は意味違うんですよ、今の日本で階級って言葉は使っていないでしょう。労働

働者階級という言葉はなかなか出てきません。労働者は組織されなければ階級にならないと三池で言っていました。労働者は組織されてこそ階級なんだと階級というものがなぜ発生したのか。

労働者を安く使わなければ資本家は成り立たない。暴力でもって生活手段を奪って、資本家が労働者を作ったわけです。そういうような状況だから、資本が大きくなれば大きくなるほど労働者が多く発生して、その人たちが組織され資本家と対立することで階級闘争となっていくのです。大事なのが我々は労働者階級なんだということです。

清水…我々は労働者階級としての思想を身につける為に、日々学習して頑張ってきているわけだけど、現実にはなかなか厳しい。

勝田…一般の人は階級があるなんて誰とも言わないですよ。資本家の方は、努力すればみんなよくなると言っている。団結して闘うことが労働者階級だと書

かれているのは重要なことです。皆が労働者階級って思えば革命だって起きると思いますよ。労働者階級と思えないから、こうなっちゃっているんだ。

司会…思えなくさせられているその原因はなんでしょうか。

勝田…貧乏の原因は自分のせいだって思い込まれているということです。だから、自分の存在がわからなくなっちゃって、社会が変わると思わないし、政治に関心も持たないし、自分の職場だって仲間と団結して良くしていくんだなんて、さらさら思わない人種になっているんです。

菊地…年収200万円以下で生活している人が大勢いる。あまりにも格差がひどい。同じ人間として生きているのに、片方は年収200万円以下、もう一方は月収200万円以上。若い人と話すと基本給13万円でした。すごく低いなと思いました。

仲間へ広め、一緒に本を読んでもらうためには、学習の中身をもっと細かく砕いてやらないと難しいのかなと思いました。

私も階級闘争がわかるまで、ものすごい時間かかりました。ある日、繰り返ししているうちに、ハツとしたんです。これだ！と思いました。これがわかるといういろいろわかってくるんです。唯物史観も。一つひとつみんなで話し合っ

て学習すると、最初はなんだかわからないけど、それをわかるために集まるのが学習会ではないかと思えます。岡本…小川地域で合同第一学習会を続けています。Oさんは小川町職を退職された今でも学習が好きだと参加しています。彼は、組合役員のなり手がないと悩んでいます。昔の比企地区は強かったのです。何とか再生したいと学習会を続けていますが、もう何をやっていいかわからないんです。特効薬がないですね。

◆ みんなの学習講座



司会…特効薬なしね。甲斐市でも学習会や市民運動の仲間がもうみんな年金生活者です。でも「俺たちは労働者だ」と言った人がいるんです。すごいと思いました。やっぱり俺らは労働者だということであれば、この『イギリスの労働者階級の状態』に学ぶことは価値があると思います。

まとめ

司会…最後に矢島さんから、この一年

間で学んだことのまとめをお願いします。

矢島…「みんなの学習講座」の『イギリスにおける労働者階級の状態』に学ぶ「連載活動」苦勞様でした。確かに、階級とか、階級闘争、搾取等の言葉は難しいと思うのは当然だと思います。私たちは生まれた時から資本主義という漬物に漬かって生活してきたのですから分かるまでは大変です。しかし、人生の中で、「ちよつと、おかしい」、

「あれ、どうして」、「なぜ」といった疑問を感じたのは一回や二回ではありません。この疑問がなぜ発生するのかです。発生の原因を千葉県協の菊地さんも言っていました、一つひとつみんなて話し合つて学習すると、最初はなんだかわかんないけど、階級闘争、搾取がわかるのです。

まさに資本主義は、隠しようのない「ボロ・増税・不払い労働・低賃金」等々の矛盾をはらみ、まき散らして進

まなければ成り立たないのです。資本主義の矛盾は反面教師として労働者に生活苦を押し付けるのです。現状を分析するというのはその通りです。エンゲルスは「労働者階級の状態とは、現代のあらゆる社会運動の実際の基盤であり、出発点である」と書いています。この言葉に学ばれます。学習と交流で現状を知り、分析し、闘つて階級闘争を学ぶことだと思います。展望は取り組み次第です。

司会…資本家と労働者の対立は資本主義が続く限り続く。これが、階級闘争になるということです。

『イギリスにおける労働者階級の状態』はこれで終わります。読者の皆さん、一年間ご愛読ありがとうございました。

次号…4月号からは『共産主義における「左翼」小児病』が始まります。乞うご期待ください。